

この秋、佼成出版社より児童書『笑顔の架け橋』佐野有美～手足のない体に生まれて～」を上梓いたしました。本書は先天性四肢欠損症として生まれながら手足のない障がいを抱える佐野有美さんの人生を綴ったノンフィクションです。有美さんの関連書籍はこれまで3作品発刊いたしました。その中で非常に心に残っているのがお子さんから寄せられる感想文です。大人向けの本を手にも、一生懸命に書いてくれたであろう感想文は、本当に感動の連続でした。そこで、お子さんから高齢の方まで年齢問わずに有美さんのメッセージを伝えたい、という強い思いから、ご縁のある佼成出版社の協力のもと、児童書として誕生しました。

有美さんの人生を振り返りますと、教育現場のことが多く出てまいります。大きな壁となった小学校入学。「障がいを見るのではなく、この子自身を見てください！」と訴えたご両親の奮闘で、有美さんは一般の小学校へと通うことになりました。入学後、校長先生は「有美ちゃんが何事も一生懸命に取り組んでいる姿をみて、ラクしよう、ズルしようという子がいなくなりました。有美ちゃんの前向きな姿勢が他の子を変えた」と感激しています。四肢の代わりに授かった有美さんの何事にも“あきらめない心”が子供たちを変えていったのです。しかし、その裏には流した涙と並々ならぬ努力がありました。数々の壁にぶつかり、その度に立ち上がり成長していく有美さんの姿には、感動を覚えずにはられません。

有美さんが講演で学校を訪れると、初めて見る手足がない人に子供たちは戸惑います。しかし、それがたった1時間後には、「ありがとうございました！」と、飛び切りの笑顔を見せ、「あの子があんな顔をするなんて」と、先生が驚くことも多々ありました。

有美さんには、本人でさえも気付いていない大きな力があります。それは他人の人生さえまでも光へと導く無限大のパワーです。人々を笑顔に変えていく力。そして、有美さんの『笑顔のパワー』を世界中へと発信していく、それが私の使命です。

2020年にはオリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。ホスト国として、今後ハード面だけではなく心のバリアフリーもしっかりと植え付けていく必要があります。有美さんの事を知った子供たちは、困っている人がいたらきっと笑顔で手を差し伸べる人へと成長していることでしょう。

私事になりますが、現在は有美さんの所属事務所代表として活動を共にしております。有美さんが高校を卒業し、就職できず悩んでいる頃に出会い、彼女に将来どのような道が拓けるかを考え、長くサポートを続けてまいりました。その中で大切にしていることがふたつあります。“この活動（仕事）が有美さんの自立につながること”。また、“多くの方へメッセージを伝えること”。この二点を守り多くの皆様の支えのもと、ぶれることなく精励してまいりました。「あきらめない心」「努力」「感謝」「生きる喜び」、そして笑顔が幸せを呼ぶ力となること。人生の土壌に不可欠な種が詰まった本書が、皆様のお役に立てることを祈っております。また、ご紹介いただける機会がございましたら、ひとりでも多くの方に本書をご紹介いただけますと望外の喜びでございます。

皆様の一度きりの人生、どうか価値あるものになりますように。